

## 「災害時の診療放射技師の安全管理」

### 第一部 「災害時における医療安全を考える」

#### 座長集約

山形県立中央病院 放射線部 荒木 隆博  
東北医科薬科大学病院 放射線部 田浦 将明

今年で東日本大震災から10年が経過した。近年では台風や豪雨など、多くの自然災害が発生している。どれほど時が経とうとも、震災や災害の記憶を風化させてはならない。そこで今回のJART・JSRT合同企画では、福島開催ということも鑑み「災害時の診療放射線技師の安全管理」について、改めて再考することとした。第1部では実際に災害を経験された演者の方々より、診療放射線技師が災害に対しどのように対応すべきか、どう準備しておくべきかを報告いただいた。

石巻赤十字病院 及川 林先生からは「東日本大震災での医療安全管理」と題し、震災時の放射線業務や事例を通して医療安全対策の重要性を教えていただいた。自施設に活かせることも多く示していただき、やはり平時からの準備が大切であり、今後も災害訓練を継続していくことが肝要であると改めて考えさせられた。

星総合病院 續橋 順市先生からは令和元年東日本台風での被災経験を通して、「台風19号による災害状況と医療安全」について教えていただいた。事前準備をしても、その想定を上回る自然災害の脅威に、私は言葉を失った。現在当院で再構築している村山高瀬川氾濫を想定したBCPに役立てたい講演内容であった。

岩手県予防医学協会 久保田 憲宏先生からは東日本大震災と台風10号による水害を通して「災害時における健診業務」について教えていただいた。有事では平時と異なる撮影業務で支援しておられ、大変な状況であったと察することができた。また災害マニュアルや行動指針、職場内での協力の重要性を共感できた。

私にとってこの度のシンポジウムは、改めて自施設の災害対策マニュアルやBCPを見直す良いきっかけとなった。大変有意義な内容であった各講演を拝聴できなかった方々には、是非ともオンデマンド配信を生かして拝聴していただくか、東北支部雑誌で確認いただきたい。それが自施設の災害時における医療安全対策や、BCP策定の指標になるものと確信している。